

1. 設計条件

この課題は、ある地方都市の総合大学敷地(キャンパス)内にある古い校舎を建て替えるものである。計画に当たっては、特に次のことが求められている。

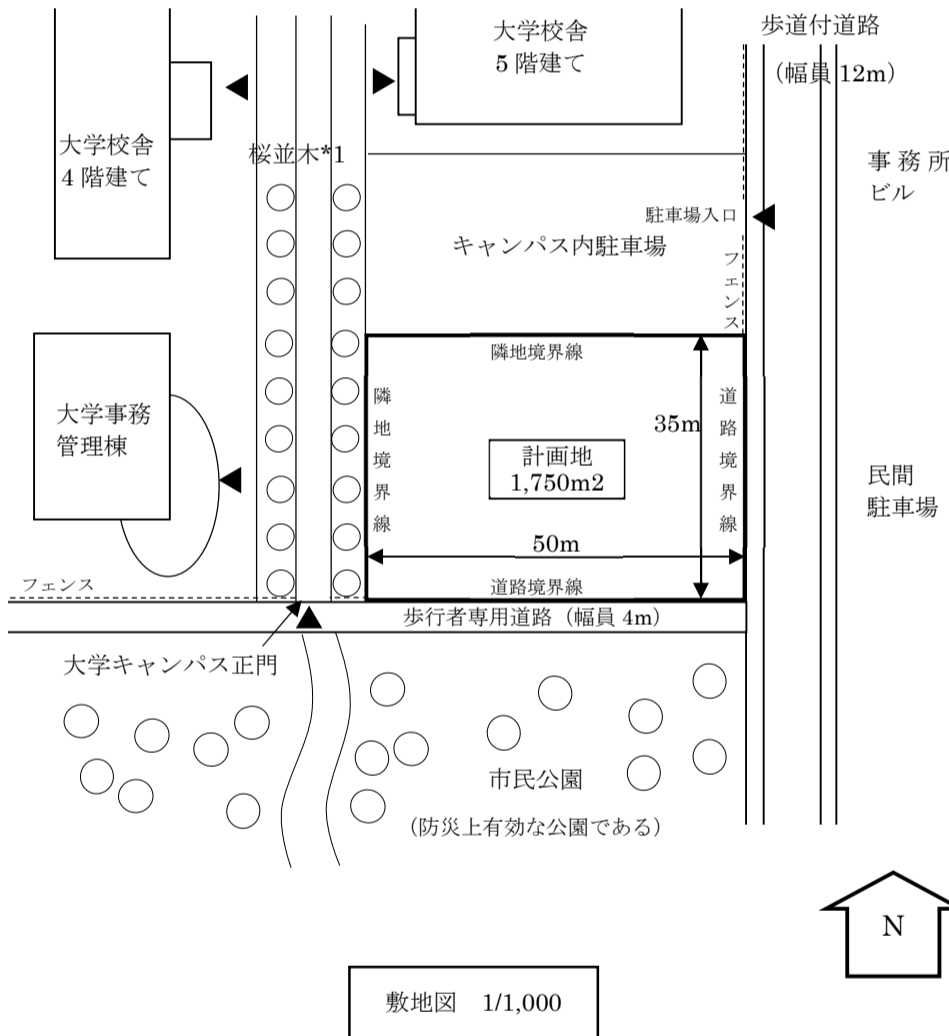
- キャンパス環境に呼応した施設計画とする。
- 様々な学びが想起されるような空間構成に配慮する。
- 省エネルギー化の実現及び再生可能エネルギーの導入によるエネルギー自立度を高めた計画とする。

1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、「敷地図」のとおりである。
- 敷地は平坦で、敷地と、道路の路面の中心、隣地及び道路の反対側の敷地には、高低差はない。また、歩道の切り開きは、6mまで可能である。
- 敷地及びその周辺は、近隣商業地域(道路高さ制限及び隣地高さ制限における斜線勾配はそれぞれ1.5とする。)及び準防火地域に指定されている。また、建蔽率の限度は70%(所定の加算を含む。)、容積率の限度は300%である。これら以外に、地域、地区等及び特定行政庁による指定、許可等並びに日影による建築物の高さの制限はない。
- 電気、ガス及び上下水道は完備している。
- 地盤は既存建物の埋め戻し等があり、GL-4mまで地盤改良を必要としている。
- 気候は温暖であり、積雪について特別の配慮はしなくてよい。

2. 建築物

- 構造形式は自由とし、地上3階建て以上の耐火建築物とする。
- 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」に規定する「建築物移動等円滑化誘導基準」を満たすとともに、ユニバーサルデザインとすることが求められている。



*1: 桜並木の一部はアプローチのために移設してもよい。

(3) 要求室

下表の室は、すべて計画する。

| 部門 | 室名 | 特記事項 | 面積 |
|---------------------|---|--|-------------------------|
| 公開 学習 部門 | 多目的 ホール | ・一般聴講生の利用に配慮する。 ・天井高さを6.1m以上とする。 ・無柱空間とする。 ・ステージを含む利用者ゾーンで240m ² 以上とする。 ・倉庫等を設ける。 | 適宜 |
| | 講師控室 | ・多目的ホール用とする。 | 適宜 |
| | ホワイエ | ・多目的ホール用とする。 | 適宜 |
| | 情報ラウンジ | ・飲食ができるよう厨房を設ける。 ・アウトドアガーデンからも出入りできる。 ・上部を吹抜け(面積適宜)とし、一体感に配慮する。 | 200m ² 以上 |
| | 資料室 | ・防犯カメラ及びIDカードによる管理とする。 ・コピー機や端末を配置するがレイアウトはしなくてよい。 | 約80m ² |
| ゼミ ・ 講習 部門 | ゼミ室1-3 | ・小さめのゼミ室(約25m ²)を3室設ける。 ・座席などのレイアウトはしなくてよい。 | 計約 75m ² |
| | ゼミ室4-6 | ・大きめのゼミ室(約40m ²)を3室設ける。 ・座席などのレイアウトはしなくてよい。 | 計約 120m ² |
| | フリー ラウンジ | ・情報ラウンジとの関係性に配慮する。 | 約80m ² |
| | コピー室 | ・ゼミ室と同じ階に設ける。 | 適宜 |
| | 非常勤講師室 | ・非常勤講師用の控室を設ける。 | 約120m ² |
| | 大講義室 | ・約80m ² の室を3室設ける。 ・座席などのレイアウトはしなくてよい。 | 適宜 |
| 講義室 | ・50m ² 以上の室を12室設ける。 ・座席などのレイアウトはしなくてよい。 | | |
| 共用 他 | 小講義室 | ・25m ² 以上の室を9室設ける。 ・座席などのレイアウトはしなくてよい。 | 各40m ² 以上 |
| | 休憩ラウンジ | ・3階以上各階に設ける。 ・座席などのレイアウトはしなくてよい。 | |
| | エントランス ホール | ・風除室を設ける。 ・キャンパスからのアプローチに配慮する。 | 適宜 |
| | 事務室 | ・エントランスホールに面して案内カウンターを設ける。 ・約10m ² /人とし、4人分の面積を確保する。 | 適宜 |
| 設 備 | ポンプ室 | ・屋内消火栓用とする。 | 適宜 |
| | | ・空調室外機、PS、DS、EPS等を、適切に設ける。 ・太陽光パネルの設置を含め、屋上設備スペースを設ける。 ・昇降機設備は、利用者用2台を設ける。 ・採用した設備計画に応じて、「機械室」等を適切に設ける。 | |

3. その他の施設等

- 駐車場は、北側キャンパス内駐車場を利用するため、計画しなくてよい。
- 駐輪場は、2.0m×0.5m/台とし、20台分以上を設ける。
- キャンパス利用者が気軽に利用できるアウトドアガーデン(160m²以上)を設ける。(屋外ファニチャー等のレイアウトはしなくてよい)
- 敷地内は極力緑化する。

4. 留意事項

- 構造計画については、次の点に留意する。
 - 基礎構造については、地盤条件や経済性を踏まえ適切に計画する。
 - 耐震性や経済性に配慮し、架構を計画する。
- 設備機器等の搬入、更新及びメンテナンスに配慮する。
- 延焼ライン(建築物の延焼のおそれのある部分の位置)を記入する。必要に応じて、延焼ライン及び防火区画(面積区画、縦穴区画等)に要求される所定の防火設備を適切に計画する。
- 地上に通じる2以上の直通階段を適切に計画する。必要に応じて、「敷地内の避難上必要な通路」を適切に計画する。
- 計画に際し、「建築基準法第56条第7項(天空率)」、「建築基準法施行令第5章の3(避難上の安全の検証)」等の規定を適用する場合には、答案用紙裏面にその計算過程及び結果を記入する。

II. 要求図書

答案用紙 I 及び答案用紙 II の定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図面(答案用紙 I に記入)

「I. 設計条件」の要求等を満足したことを明示したうえで、下表に示す事項を図示又は記入して、図面を作成する。(フリーハンドでもよい。)

ほかにも計画上で工夫、配慮した事項について、図面上に什器等を記入して表現し、簡潔な文章や矢印等により補足して明示する。

| 図面及び縮尺 | 特記事項 |
|-----------------------|---|
| (1)1階平面図兼配置図 1/200 | ① 各平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 主要寸法、床面積、室名等、什器等 ロ. 延焼ライン(建築物の延焼のおそれのある部分の有無にかかわらず必ず記入する。)、延焼ライン及び防火区画に用いる防火設備の位置及び種別 |
| (2)2階平面図 1/200 | ハ. 断面図の切断位置 |
| (3)基準階平面図 1/200 | ② 1階平面図・配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 駐輪場(台数及び出入口を明示する。) 植栽、屋外ファニチャー等 ロ. 「敷地内の避難上必要な通路」の経路と幅 ハ. 建築物から敷地境界線までの最小後退距離 |
| | ③ 2階平面図及び基準階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 居室の最も遠い位置から2の直通階段に至る歩行経路、その一に至る歩行距離及び重複区間の長さ ロ. 直下階の屋根、庇等 |
| (3)断面図 1/200 | ④ 基準階平面図は3階平面図とし、3階以上、同平面図になる範囲を破線で明示する。 ① 切断位置は、多目的ホールを含み、建築物全体の構成がわかる断面とする。なお、水平方向及び地上部の鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 建築物の最高高さ、階高、天井高、床高及び主要な室名等を記入する。 ③ 高さ制限への適合が確認できる情報(道路、最小後退距離、計算式等)を記入する。 ④ 適切な地盤から建築物を支えるための基礎を図示する。(切断位置に現れない場合には、破線で必ず図示する。) 壁、梁及びスラブの断面を図示する。 ⑤ 屋上の設備スペースがあれば図示する。(切断位置に現れない場合には、破線で図示する。) |

2. 面積表(答案用紙 I に記入)

(1) 建築面積及びその算定式を記入する。

(2) 床面積の合計及び各階の床面積の算定式を記入する。

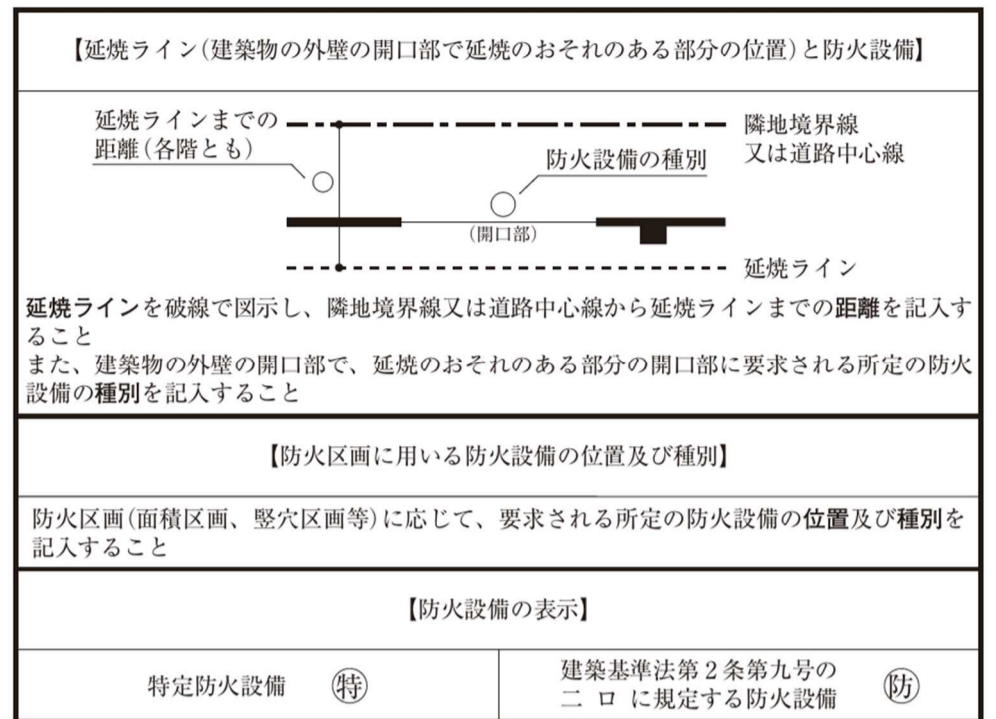
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー(外気に有効開放されているものに限る。)、屋外階段及び屋上設備スペースは、床面積に算入しない。ただし、ピロティ等を屋内的用途に供するもの(駐車場、駐輪場、設備スペース等)については、床面積に算入する。

3. 計画の要点等

オープン課題には要点はありません。

4. 防火設備等の凡例

柱、壁、開口部等を明確に作図し、防火設備の表示(特、防)については、必要な箇所に全て記入すること



【建築物の計画に当たっての留意事項(課題公表時の再掲)】

- ・敷地の周辺環境に配慮して計画する。
- ・バリアフリー、省エネルギー、二酸化炭素排出量削減、セキュリティ等に配慮して計画する。
- ・各要求室を適切にゾーニングし、明快な動線計画とする。
- ・大地震等の自然災害が発生した際に、建築物の機能が維持できる構造計画とする。
- ・建築物全体が、構造耐力上、安全であるとともに、経済性に配慮して計画する。
- ・構造種別に応じて架構形式及びスパン割りを適切に計画するとともに、適切な断面寸法の部材を計画する。
- ・空調設備、給排水衛生設備、電気設備、昇降機設備等を適切に計画する。

5. 図面レイアウト(製図試験.com 課題指示:本試験では解答用紙 I に記載)



6. 修正点: 問題文にミスがあった場合は、ここに修正点を挙げます。

ver.240728 版

- 1) 情報ラウンジ 吹抜け → 吹抜け(面積適宜)
- 2) 敷地図追記:*1:桜並木の一部はアプローチのために移設してもよい
- 3) アウトドアガーデン(約 160m² 以上) → (160m² 以上)

■ 添削について

オープン課題については原則添削を行いません。
トレース課題として位置づけ、手を動かす練習にご利用ください。コース生には用紙とともに、第1課題 B を8月1日に発送予定です。
〒554-0012 大阪市此花区西九条 2-7-8-3F 製図試験.com 事務局
送付は PDF もしくは郵送(レターパックライトがおすすめ)でお願いします。
また郵送の場合はコピーを取ったのち、その原本を4つ折りしてお送りください。
PDF をアップシステムは8月1日に新しいものに変更します。



7. 以下のチェックシートは添削用に用いるものを掲載しています。

6時間からあとの30分チェックに利用してください。

| 製図試験.com 添削チェックシート(★は問題文参照) | | |
|-------------------------------------|---|----|
| 不一致→法規・構造・設備→★断面・面積→★外部アルナシ→★内部アルナシ | | |
| 添削項目 | チェック | 最終 |
| D 図面印象 | D4 不明表現、D8 外形不一致、D9 未完 | |
| 4 法規 | 41 防火区画(面積・堅穴・異種用途-特) 42 延焼ライン+外部区画-防 43 道路・北側・隣地斜線・建築制限 44 二方向避難・敷地内通路 45: BF法→駐車場、段差処理、多機能トイレ 46: 建基法関連→無窓、採光、廊下排煙 47: 建基法規以外 | |
| 5 構造 | 51 ラーメン(大空間・74 断面) 52 キャンチバー不成立 | |
| 6 設備 | 61: 空調設備: 方式・機械室・室外機(平断) DS・空調用 PS 62: 電気設備: キュービクル(平断)、EPS 63: 給排水設備: 方式+ポンプ室 or 受水槽(室)、排水用の下階 PS 64: 消防設備: 消火ポンプ室(10m ² -15m ²) 65: 4 シャフト: 4 シャフトを再度確認: PS, DS, EPS, 空調用 PS | |

| | |
|----------|---|
| ★7 断面図 | 71: 切断位置・向きの整合性 72: 室名・主要寸法 73: 法規系書込み 74: 構造表現 75: 設備含む屋上表現 |
| ★7 面積表・ | 76: 建ぺい率・床面積違反 77: 計算間違い等 |
| 外部空間 | |
| A: アプローチ | A1 利用者、A2 管理サービス、A3 アプローチ指定抜け・過多 |
| S: 配置計画 | S1 配置バランス、S2 周辺環境関係、S3 未利用(未記入地) S9 勾配屋根 |
| ★13: その他 | 駐車場台数、駐輪場台数、広場(面積・位置) |
| 内部空間 | |
| P: プラン印象 | P1 スケルトン形状(コア・大空間・吹抜け位置) P2 共用部・建築物形状 |
| Z: 動線 | Z1 致命的動線交錯・抜け Z3 管理部門ミス、Z4 階の振分けミス |
| ゾーニング | Z5 特殊ゾーニングミス(SEC,上下足、課金、時間) |
| ★3: 要求室 | 31 室名 32 特記事項: 動線、天井高さ、造作・什器、室形状他 33 面積: ○○m ² 以上他特殊な面積 |

I. 設計条件

この課題は、ある地方都市の総合大学敷地(キャンパス)内にある古い校舎を建て替えるものである。計画に当たっては、特に次のことが求められている。

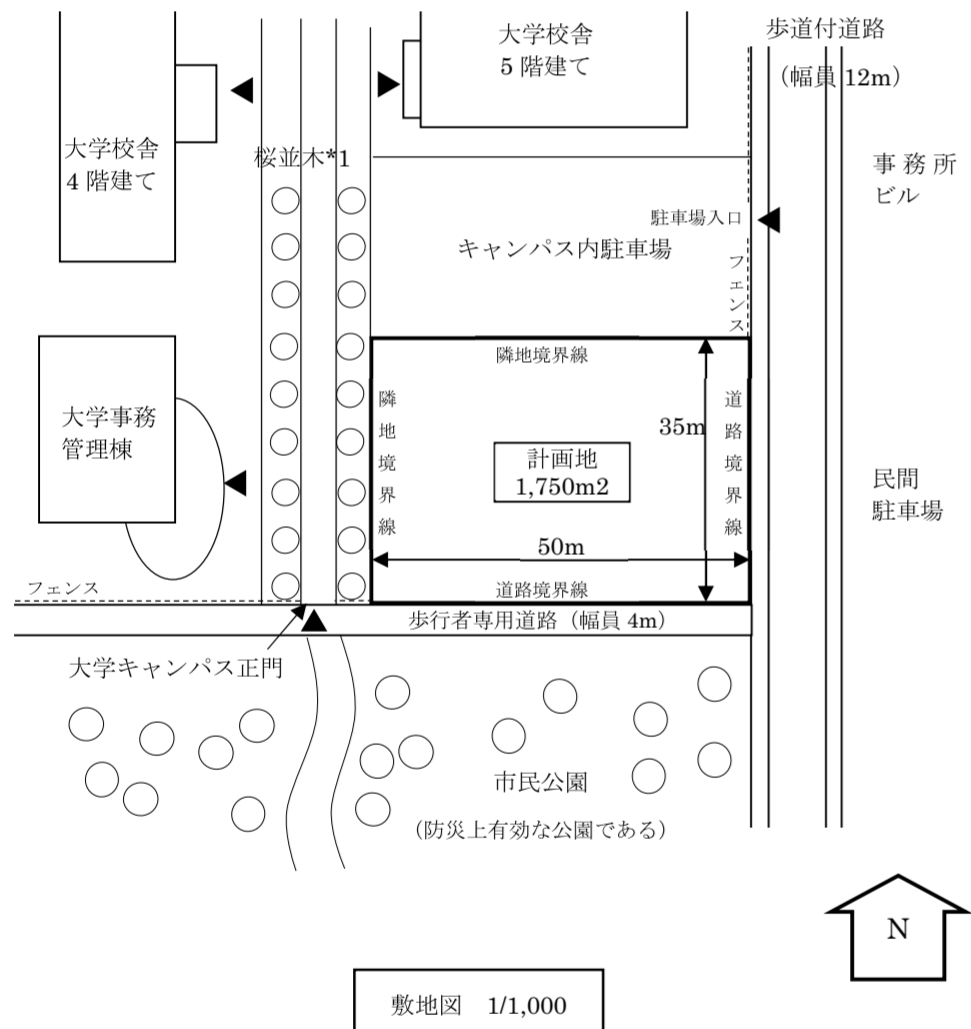
- キャンパス環境に呼応した施設計画とする。
- 様々な学びが想起されるような空間構成に配慮する。
- 省エネルギー化の実現及び再生可能エネルギーの導入によるエネルギー自立度を高めた計画とする。

1. 敷地及び周辺条件

- 敷地の形状、接道条件、周辺状況等は、「敷地図」とおりである。
- 敷地は平坦で、敷地と、道路の路面の中心、隣地及び道路の反対側の敷地には、高低差はない。また、歩道の切り開きは、6mまで可能である。
- 敷地及びその周辺は、近隣商業地域(道路高さ制限及び隣地高さ制限における斜線勾配はそれぞれ1.5とする。)及び準防火地域に指定されている。また、建蔽率の限度は70%(所定の加算を含む。)、容積率の限度は300%である。これら以外に、地域、地区等及び特定行政庁による指定、許可等並びに日影による建築物の高さの制限はない。
- 電気、ガス及び上下水道は完備している。
- 地盤は既存建物の埋め戻し等があり、GL-4mまで地盤改良を必要としている。
- 気候は温暖であり、積雪について特別な配慮はしなくてよい。

2. 建築物

- 構造形式は自由とし、地上3階建て以上の耐火建築物とする。
- 「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」に規定する「建築物移動等円滑化誘導基準」を満たすとともに、ユニバーサルデザインとすることが求められている。



*1: 桜並木の一部はアプローチのために移設してもよい。

(3) 要求室

| 調 | 室名 | 特記事項 | 面積 |
|-------|-----------|---|----------------------|
| 公開 | 多目的ホール | ・一般聴講生の利用に配慮する。 ・天井高さを6.1m以上とする。 ・50m ² 以上の講義室の天井高さは3m以上とする。 | 適宜 |
| 学習 | 講師控室 | ・多目的ホール用とする。 | 適宜 |
| 部門 | ホワイエ | ・多目的ホール用とする。 | 適宜 |
| | 情報ラウンジ | ・飲食ができるよう厨房を設ける。 ・アウトドアガーデンからも出入りできる。 ・上部を吹抜け(面積適宜)とし、一体感に配慮する。 | 200m ² 以上 |
| | 資料室 | ・防犯カメラ及びIDカードによる管理とする。 ・コピー機や端末を配置するがレイアウトはしなくてよい。 | 約80m ² |
| ゼミ・講習 | ゼミ室1-3 | ・小さめのゼミ室(約25m ²)を3室設ける。 ・座席などのレイアウトはしなくてよい。 | 計約75m ² |
| 部門 | ゼミ室4-6 | ・大きめのゼミ室(約40m ²)を3室設ける。 ・座席などのレイアウトはしなくてよい。 | 計約120m ² |
| | フリーラウンジ | ・情報ラウンジとの関係性に配慮する。 | 約80m ² |
| | コピー室 | ・ゼミ室と同じ階に設ける。 | 適宜 |
| | 非常勤講師室 | ・非常勤講師用の控室を設ける。 | 約120m ² |
| | 大講義室 | ・約80m ² の室を3室設ける。 ・座席などのレイアウトはしなくてよい。 | 適宜 |
| | 講義室 | ・50m ² 以上の室を12室設ける。 ・座席などのレイアウトはしなくてよい。 | |
| | 小講義室 | ・25m ² 以上の室を9室設ける。 ・座席などのレイアウトはしなくてよい。 | |
| | 休憩ラウンジ | ・3階以上各階に設ける。 ・座席などのレイアウトはしなくてよい。 | 各40m ² 以上 |
| 共用 | エントランスホール | ・風除室を設ける。 ・キャンパスからのアプローチに配慮する。 | 適宜 |
| 他 | 事務室 | ・エントランスホールに面して案内カウンターを設ける。 ・約10m ² /人とし、4人分の面積を確保する。 | 適宜 |
| 設備 | ポンプ室 | ・屋内消火栓用とする。 ・空調室外機、PS、DS、EPS等を、適切に設ける。 ・太陽光パネルの設置を含め、屋上設備スペースを設ける。 ・昇降機設備は、利用者用2台を設ける。 ・採用した設備計画に応じて、「機械室」等を適切に設ける。 | 適宜 |

3. その他の施設等

- 駐車場は、北側キャンパス内駐車場を利用するため、計画しなくてよい。
- 駐輪場は、2.0m x 0.5m/台とし、20台分以上を設ける。
- キャンパス利用者が気軽に利用できるアウトドアガーデン(160m²以上)を設ける。(屋外ファニチャー等のレイアウトはしなくてよい)
- 敷地内は極力緑化する。

4. 留意事項

- 構造計画については、次の点に留意する。
 - 基礎構造については、地盤条件や経済性を踏まえ適切に計画する。
 - 耐震性や経済性に配慮し、架構を計画する。
- 設備機器等の搬出入、更新及びメンテナンスに配慮する。
- 延焼ライン(建築物の延焼のおそれのある部分の位置)を記入する。必要に応じて、延焼ライン及び防火区画(面積区画、堅穴区画等)に要求される所定の防火設備を適切に計画する。
- 地上に通じる2以上の直通階段を適切に計画する。必要に応じて、「敷地内の避難上必要な通路」を適切に計画する。
- 計画に際し、「建築基準法第56条第7項(天空率)」、「建築基準法施行令第5章の3(避難上の安全の検証)」等の規定を適用する場合には、答案用紙裏面にその計算過程及び結果を記入する。

II. 要求図書

答案用紙Ⅰ及び答案用紙Ⅱの定められた枠内(寸法線については枠外でもよい。)に、黒鉛筆を用いて記入する。

1. 要求図面(答案用紙Ⅰに記入)

「1. 設計条件」の要求等を満足したことを明示したうえで、下表に示す事項を図示又は記入して、図面を作成する。(フリーハンドでもよい。)ほかにも計画上で工夫、配慮した事項について、図面上に什器等を記入して表現し、簡潔な文章や矢印等により補足して明示する。

| 図面及び縮尺 | 特記事項 |
|-----------------------|--|
| (1)1階平面図兼配置図 1/200 | ① 各平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 主要寸法、床面積、室名等、什器等 ロ. 延焼ライン(建築物の延焼のおそれのある部分の有無にかかわらず必ず記入する。)、延焼ライン及び防火区画に用いる防火設備の位置及び種別 ハ. 断面図の切断位置 ② 1階平面図・配置図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 駐輪場(台数及び出入口を明示する。) 植栽、屋外ファニチャー等 ロ. 「敷地内の避難上必要な通路」の経路と幅 ハ. 建築物から敷地境界線までの最小後退距離 ③ 2階平面図及び基準階平面図には、次のものを図示又は記入する。 イ. 居室の最も遠い位置から2の直通階段に至る歩行経路、その一至る歩行距離及び重複区間の長さ ロ. 直下階の屋根、庇等 ④ 基準階平面図は3階平面図とし、3階以上、同平面図になる範囲を破線で明示する。 |
| (2)2階平面図 1/200 | |
| (3)基準階平面図 1/200 | |
| (3)断面図 1/200 | ① 切断位置は、多目的ホールを含み、建築物全体の構成がわかる断面とする。なお、水平方向及び地上部の鉛直方向の省略は行わないものとする。 ② 建築物の最高高さ、階高、天井高、床高及び主要な室名等を記入する。 ③ 高さ制限への適合が確認できる情報(道路、最小後退距離、計算式等)を記入する。 ④ 適切な地盤から建築物を支えるための基礎を図示する。(切断位置に現れない場合には、破線で必ず図示する。) 壁、梁及びスラブの断面を図示する。 ⑤ 屋上の設備スペースがあれば図示する。(切断位置に現れない場合には、破線で図示する。) |

2. 面積表(答案用紙Ⅰに記入)

- 建築面積及びその算定式を記入する。
- 床面積の合計及び各階の床面積の算定式を記入する。
この課題の床面積の算定においては、ピロティ、塔屋、バルコニー(外気に有効開放されているものに限る。)、屋外階段及び屋上設備スペースは、床面積に算入しない。ただし、ピロティ等を屋内的用途に供するもの(駐車場、駐輪場、設備スペース等)については、床面積に算入する。

7. 以下のチェックシートは添削用に用いるものを掲載しています。

| 製図試験.com 添削チェックシート(★は問題文参照) | | |
|-------------------------------------|--|----|
| 不一致→法規・構造・設備→★断面・面積→★外部アルナシ→★内部アルナシ | | |
| 添削項目 | チェック | 最終 |
| D 図面印象 | D4 不明表現、D8 外形不一致、D9 未完 | |
| 4 法規 | 41 防火区画(面積・堅穴・異種用途・特) 42 延焼ライン+外部区画-防 43 道路・北側・隣地斜線・建築制限 44 2方向避難・敷地内通路 45: BF法→駐車場、段差処理、多機能トイレ 46: 建基法関連→無窓、採光、廊下排煙 47: 建基法規以外 | |
| 5 構造 | 51 ラーメン(大空間・74 断面) 52 キャンチレバー不成立 | |
| 6 設備 | 61: 空調設備: 方式・機械室・室外機(平衡) DS・空調用 PS 62: 電気設備: キュービクル(平衡)、EPS 63: 給排水設備: 方式+ポンプ室 or 受水槽(室)、排水用の下階 PS 64: 消防設備: 消火ポンプ室(10m ² -15m ²) 65: 4シャフト: 4シャフトを再度確認: PS.DS.EPS.空調用 PS | |

3. 計画の要点等

オープン課題には要点はありません。

4. 防火設備等の凡例

柱、壁、開口部等を明確に作図し、防火設備の表示(㊟、㊞)については、必要な箇所に全て記入すること

| 【延焼ライン(建築物の外壁の開口部で延焼のおそれのある部分の位置)と防火設備】 | |
|---|---------------------------|
| | |
| 延焼ラインを破線で図示し、隣地境界線又は道路中心線から延焼ラインまでの距離を記入すること また、建築物の外壁の開口部で、延焼のおそれのある部分の開口部に要求される所定の防火設備の種別を記入すること | |
| 【防火区画に用いる防火設備の位置及び種別】 | |
| 防火区画(面積区画、堅穴区画等)に応じて、要求される所定の防火設備の位置及び種別を記入すること | |
| 【防火設備の表示】 | |
| 特定防火設備 ㊟ | 建築基準法第2条第九号の二ロに規定する防火設備 ㊞ |

【建築物の計画に当たっての留意事項(課題公表時の再掲)】

- 敷地の周辺環境に配慮して計画する。
- バリアフリー、省エネルギー、二酸化炭素排出量削減、セキュリティ等に配慮して計画する。
- 各要求室を適切にゾーニングし、明快な動線計画とする。
- 大地震等の自然災害が発生した際に、建築物の機能が維持できる構造計画とする。
- 建築物全体が、構造耐力上、安全であるとともに、経済性に配慮して計画する。
- 構造種別に応じて架構形式及びスパン割りを適切に計画するとともに、適切な断面寸法の部材を計画する。
- 空調設備、給排水衛生設備、電気設備、昇降機設備等を適切に計画する。

5. 図面レイアウト(製図試験.com 課題指示:本試験では解答用紙Ⅰに記載)

| | |
|-----------|--------|
| 1階平面図兼配置図 | 基準階平面図 |
| 2階平面図 | 断面図 |

6. 修正点: 問題文にミスがあった場合は、ここに修正点を挙げます。

ver.240728 版

- 情報ラウンジ 吹抜け → 吹抜け(面積適宜)
- 敷地図追記:*1:桜並木の一部はアプローチのために移設してもよい
- アウトドアガーデン(約160m²以上) → (160m²以上)

■添削について
オープン課題については原則添削を行いません。
トレース課題として位置づけ、手を動かす練習にご利用ください。コース生には用紙とともに、第1課題Bを8月1日に発送予定です。
〒554-0012 大阪市此花区西九条2-7-8-3F 製図試験.com 事務局
送付はPDFもしくは郵送(レターパックライトがおすすめ)をお願いします。
また郵送の場合はコピーを取ったのち、その原本を4つ折りしてお送りください。
PDFをアップシステムは8月1日に新しいものに変更します。

製図試験.com